吾峰
第150号
福島大学
人間発達文化学類
同窓吾峰会 会 報

135年
150号
の伝統を

つなぐ むすぶ 広げる

会報「吾峰」発行の歩み

創立135周年 会報吾峰150号の節目に

同窓吾峰会長
峯島和彦

この度「吾峰」第百五十号を発行する運びとなりました。これまで玉稿を頂き多くのご支援を賜りました皆様、そして会報編集の努力を積み重ねて来られた歴代広報担当の方々に深く感謝を申し上げます。

戦後六三三四制の教育制度施行により以前の福島青年師範学校と福島師範学校とが併合されて新制福島大学（学芸学部）が発足しました。以前は各々に同窓会を持っていましたがこれらを併せて「福島同窓会」が発足し、ここから本会の活動が始まっています。昭和二十五年十一月に会報第一号が「あぶくま」という名称で発行されました。その後本会にふさわしい名称を生み出そうという機運が高まり、第四号で同窓会の新しい名称を公募し本会の名称を「吾峰会」、会報の名称を「吾峰」と決定して現在に至っています。この名称は当時の学芸学部長で、後年県教育長を務められた栗村虎雄先生の発案によるものでした。

昭和二十八年一月の第五号から会報「吾峰」として発行されていますが、年二回の発行ですから本会の会報発行事業は現在まで七十五年以上切れ目なく続けられたことになります。実にこれまで携わった先輩の方々が営々と努力されて来た跡が感じられます。

本会は福島師範、同女子師範、白河農学校実業教員研修所、福島青年師範学校、福大学芸学部の五つの卒業同窓会が一つになって結成されたものです。戦前の教育体系が複線型であったことを考えれば当然のことですが、当時の会報を見ると和気あいあいとした活動の状況がうかがえます。

福島大学は全学再編を検討し、平成十六年に名称が「国立大学法人福島大学」と変わりました。学部は学類となり、教育学部は人間発達文化学類へと変わりました。またこの間に新たに行政政策と共生システム理工の二学類が加わり、併せて四学類（途中食農学類が設置されて五学類）を擁する大学になりました。そして平成二十年から本会の名称は「福島大学人間発達文化学類同窓吾峰会」と改められ現在に至っています。

この大学再編により、我が母校の学類は教育学部の伝統を引き継ぎながら、教員免許取得を義務付けない目的養成校として再出発しました。そのため、卒業後に教職に就く卒業者数が年々減少して来ています。

本会は前述の様に五つの校種の卒業同窓会が一つになり、これまで協力して会員数を増やして来ましたが、今後は一般企業や各自治体等に就職した学類の卒業生との交流を積極的に進め、若手会員や各支部への未登録者の登録促進を図り、本会活動に参加できる組織の構築が求められます。

新聞報道（五・一・二一付）によればこの五月にも新型コロナウイルスが季節性インフルエンザと同じ扱いとなる見通しですが、このコロナ禍も間もなく終息するものと思います。本会活動の遅れや停滞が心配されますが、各支部活動の益々の充実・発展をご祈念申し上げます。（昭四二卒）

会津若松大会の開催支部の取組について

同窓吾峰会副会長
同 会津支部長
目黒則雄

会津方部には五つの支部があり、代表して会津支部が会津若松大会の運営主体を担うことになりました。

六月二十四日（金）には会長様を始め本部役員四名の方に会津若松市にお越しいただき、会津若松大会に向けた基本的な事項についての確認と若干の協議を行いました。

具体的には以下の通りです。

①全国的に社会経済活動が行われているので、同窓吾峰会大会を実施したい。

②コロナ禍で実施するので、次年度以降の大会の参考になるようにしたい。

③コロナ感染防止策の基本的行動様式を徹底した大会にする。

④会津若松ワシントンホテルのコロナ感染予防に関する専門的なアドバイスを受けて実施する。

その後、ホテルの担当者と講演会場を視察し、参加人数を百二十名程度と確認しました。

ここから大会開催に向けた具体的な準備を開始し、七月初めには講師依頼と県外を含めた全支部に大会案内を送付しました。八月中旬には大会実行委員会を立ち上げ、四十四名の委員の担当係を委嘱し、実行委員会組織づくりが完了しました。

六月の本部との協議以来コロナ感染状況の推移を見守っていましたが、八月後半には感染が全国的に拡大し第七波に入りました。福島県全体の新規感染者数が一日最大四千人にまで達し、危機的な状況となりました。この様な中でしたが九月九日（金）の締切日には、一部不参加の支部もありましたが百二十一名の参加申込があり、これだけの大会参加者があれば、盛会裏に大会が運営できると意気込みました。

以前に本部から「大会会場のキャンセルはいつまで可能か」との確認を受けたことがあり、約一か月前ま

次頁上段へ↖

前頁より

ではキャンセル料は発生しないと回答したことがありました。九月十三日（火）本部から「新型コロナウイルスの感染再拡大のため大会を中止して欲しい」との緊急連絡が入りました。八月後半からコロナ感染者数の高止まり状態が続きその推移を見極めて可否の判断を行うため、最終決定までに時間を要した旨本部の説明がありました。

この知らせは私にとって正に晴天の霹靂であり、実行委員会の皆にどう説明すべきか大変迷いました。開催支部としては、もう少し早く中止決定のお知らせを頂きたかったと思っています。

最後になりますが、これまで同窓吾峰会本部並びに会津方部の各支部の皆様、特にご協力を賜りました実行委員会の皆様に深く感謝を申し上げます。今回の取組が今後の同窓吾峰会活動のどこかに生かされることがあれば幸いだと思っております。

厳寒期を迎え皆様方のご健勝を祈念いたします。

（昭四三卒　会津支部）

第二回常任理事・理事会開催

日時…令和４年11月30日㈬13：30～15：30
場所…福島県教育会館第一会議室

コロナ感染対策を十分に行って実施された。

特に、目黒則雄副会長・実行委員長が、残念ながら会津若松大会が中止になった経過について細かな資料を示しながら説明されたことが特筆される。

会議の順序・内容

進行　関場弘子事務局次長

1開会のことば
　鈴木　隆　副会長
2会長あいさつ
　峯島和彦　会長
3報告
(1)令和４年度事業並びに会計執行中間報告
　野崎修司事務局長
　我彦　武会計部長
(2)同窓吾峰会会津若松大会報告
　目黒則雄副会長・会津支部長
(3)組織強化委員会報告
　山寺精吉組織部長
(4)研究奨励事業報告
　熊田喜宣研究部長
(5)会報編集委員会報告
　平野哲哉広報部長
(6)ホームページ委員会報告
　川﨑康宏ＨＰ委員長
(7)福島大学ホームカミングデーについて　事務局長
4議長選出
　飯沼信一理事
5協議
(1)令和４年度同窓吾峰会主催卒業祝賀会開催について
　提案者　事務局長
6諸連絡
7閉会のことば
　目黒則雄副会長

開会のあいさつ　鈴木副会長

峯島会長あいさつ

会場　常任理事･理事の面々

閉会のあいさつ　目黒副会長

飯沼信一議長

事業中間報告

1大会の開催
(1)大会打合せ　6月24日
(2)同窓吾峰大会　中止
2会議の開催
(1)評議員会　中止
(2)監事会　4月14日
一般・特別会計監査
(3)理事会
・第1回　4月28日
・第2回　11月30日
(4)常任理事会
・理事会と合同で実施
(5)積立金管理運営委員会
・令和５年２月24日予定
3会報発行
149号　8月1日
150号　5年2月10日
4会員の慶弔
・賀寿贈呈28名の予定
・弔慰金10月末44名
5母校への支援・協力
※その他問い合わせは事務局へ

■一般会計中間報告

1歳入総額９百９万余円
・新加入者…２５２人
2歳出総額４百25万余円
・11月15日現在
3差引残額４百84万余円
今後の支出を考慮してもコロナ禍の影響で大きな事業が中止になったことが原因で、かなりの剰余金が出る。

■組織強化委員会報告

1活動方針
(1)各支部への支援
(2)会員名簿刊行の準備
2活動の概要
(1)組織強化委員会
(2)会員名簿発行係会
○名簿刊行令和６年12月
○名簿発送令和７年１月

■研究奨励事業報告

〈令和４年度研究奨励事業研究応募論文数〉
○個人……１点
○団体……６点
〈今後の予定〉
○12月審査結果受領
○令和５年１月表彰式
○同２月研究物返却

■会報編集委員会報告

1会報「吾峰」149号
○８月１日付発行に感謝
・原稿執筆、資料情報提供
2会報「吾峰」150号発行
○令和５年２月10日予定
・「150文字の想い」募集

■ホームページ委員会報告

◎ＨＰ委員会８月31日実施
①ＨＰ改善の意見交換
○iPadで閲覧拒否解決
○ＨＰに簡単にアクセスするため会報にＱＲコードを掲載してみたい
②原稿の内容点検・校正

支部長のバトンタッチ!!

支部長に就任して

福島支部長
渋谷　朗

この度、前支部長の野崎修司先生の後を引継ぎ、福島支部の支部長に就任しました渋谷朗です。思わぬ大役を仰せつかり、責任のおもさを感じながら仕事を進めております。しかし、五名の副支部長をはじめ理事、監事、事務局の方々に支えていただいていますので、心強く安心しております。まだまだ、コロナ禍の中での制約はありますが、福島支部としてできるところをしっかりと進めていきたいと思っております。

今年度の活動は「支部だより」の発行を中心にしておりますが、浜田町時代と今を比較した特集を始めました。ホームページからご覧いただけます。今、現役の先生方はもちろん副支部長も金谷川キャンパス卒業の方が多くなりました。そして、現在の卒業生は教職にならない会員が多い状況とお聞きしました。吾峰会の有り様も必然的に変わっていくのでしょう。

福島大会を最後に、三年にわたり大会が行われない状況が続いております。来年こそは安達の地に集まり、旧交を温めながら絆を深め、将来についてお話しできれば嬉しいです。

賀寿のお祝いに伺ったとき、元気なお姿で迎えてくれる大先輩の笑顔、お言葉に力をいただいております。私も負けずに頑張りたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

（昭四九卒）

支部長退任にあたって「感　謝」

前福島支部長
野崎　修司

令和二年四月から二年間お世話になりました。

振り返りますと、最初にコロナ感染対策が大きな問題となりました。結果、支部評議員会が二回中止となり、現場の状況を把握し、運営する事が困難になりました。この様な中で、拠点となる事務局校の校長先生、教頭先生方の熱心な支援は、支部活動を支える強力な原動力となりました。

組織面では、評議員の世代交代が課題でした。現評議員の方のご尽力で、次の世代に委譲され、評議員がいなくなるという最悪の事態を避けることが出来ました。思いを託された若い世代が、賛同されたからです。同窓会は、仲間を思いやる組織だと、改めて感じたところです。

評議員の居ない地区の慶弔関係は、支部長、副支部長、理事が対応しています。私は賀寿贈呈も担当し、諸先輩と接する機会に恵まれました。勤労奉仕、終戦そして卒業と激動の時代の経験が、同窓会に対する強い絆を感じたところです。

痛恨の極みは、志半ばで同士の添田和子副支部長が急逝された事です。

この二年間は、私の人生にとって、学びの多いものとなり「感謝」致します。

最後になりましたが、渋谷支部長さんを中心に、福島支部が益々発展されますことをご祈念申し上げ、退任の挨拶と致します。

（昭四八卒）

【福島支部主な役員】

・**支部長**　渋谷　朗
・**副支部長**　土屋悦男、高橋友憲、内藤良行、福士久子、丹治秀樹
・**監　事**　齋藤文和、川上一男、伊藤きみ子

会員からのおたより

南会津支部長　五十嵐利明氏より

前略
南会津支部会員の松永則暢先生に、賀寿のお祝いをお届けしました。（九月二十四日）
会報「吾峰」への記事原稿と写真三枚を送りますので
よろしくお願いします。

ついでで申し訳ありませんが、支部会員の室井チトリ先生から、別紙のような賀寿伝達のお礼状と俳句が、三月に届きました。
折角いただいたのですが、支部では、会報発行などもしていないため、何もできません。つきましては、会報「吾峰」にもし掲載の余裕がありましたら、俳句だけでも載せていただければ、と思います。時期が遅くなっていますので、無理であれば仕方なく思いますので、取扱いをご一任致します。草々

同窓吾峰会事務局　様

室井チトリ様のお礼状

前略　猛吹雪賀壽慶祝のその佳き日
二月六日を三月六日に変更したら最悪の天候となりました。折角の日なのにと心が晴れませんでした。再々お越しいただき申し訳ないやら有難いやら、ご苦労さんで御座居ました。
有りし日の学生・教員時代を想い出し、走馬灯の如く頭を駆け巡り、生きてて賀壽を頂いた事の喜びをかみしめております。心より感謝申し上げます。
平野哲哉さんより早速に写真の掲載は八月ですとお知らせがありました。新卒・新米教師の教え子でありました。　草々

令和四年三月吉日
五十嵐利明様

室井チトリ

○校庭や　落ち葉を拾う子　三百人　桧沢小学校
○西瓜割り　父母と一緒で　河川敷　永田小学校
○雪踏みて　ジャンケンポンの　鬼ごっこ　針生小学校
○ふるさとや　一人豆打つ　老婆かな　退職校（南郷一小）

今、学校現場では…

学校現場は今

福島地区小学校長会長
福島市立福島第四小学校長
丹治秀樹

新型コロナウイルスの出現から三年目。感染予防のための不自由な生活は続いていますが、反面、この間に「ＧＩＧＡスクール構想」が推進され、学校のＩＣＴ化は一気に進みました。

子どもたちには一人一台のタブレット端末が配られ、教室はもちろん、体育館や屋外での様々な学習場面で端末を活用しています。そのため本校では、昭和の終わりに誕生したコンピュータ室から不要になったノートＰＣが撤去されました。子どもたち一人一人が薄型で機動力あるコンピュータを持つほどまでに進歩した科学技術は、学校で最も歴史の浅い特別教室を三十年余りでなくしてしまうほどの勢いをこのコロナ禍で見せつけたのです。

このタブレット端末の急速な導入は、コロナ禍における学びの保障のために予算を投じた市町村当局の努力によるものです。福島市では九月に、緊急時に備えた訓練として「全市一斉オンライン授業の日」を昨年に引き続いて実施し、子どもたちは、学校と家庭をつないだオンライン授業の後に登校しました。第七波が猛威を振るった二学期は、欠席した子どもたちが自宅から端末を活用し、オンラインで授業に参加する姿が各学校で見られたことでしょう。また、不登校対策として、保健室等の別室登校の子どもたちが、授業をオンラインで視聴することも可能になっています。

オンライン授業のみならず、日々の授業の中でタブレット端末を効果的に活用するためには、「授業支援アプリ」の活用が不可欠です。教師は、アプリを使って作成したワークシートを指導者用端末から子どもたちに送り、子どもたちは、端末上のワークシートに書き込んだり、友達と共有したりして学習します。

授業支援アプリや端末を有効に活用するために、教員には新たな研修が必要です。本校の教員は、市教委の訪問研修などを活用し、あるいは、教員同士の情報交換によって教職三十年以上のベテランも使いこなそうとしています。とは言え、端末は新しい道具に過ぎず、今後は、授業のねらいの達成のために、真に効果的に活用されているのか吟味が必要となってきます。また、一部では導入が始まっていますが、個別最適な学びのためにＡＩドリルの活用なども期待されています。

このように、ＩＣＴ化によって学習の様子が大きく変化しつつある現在ですが、同時に、家庭でのネット利用の長時間化・低年齢化、いじめなどの問題行動の不可視化など、生徒指導面では負の側面も見られ、切実な課題となっています。

だからこそ学校は、教師が子どもと向き合いながら、友達との協働的な学びや人と人との関わりを大切にした豊かな体験などを通して、リアルな人間関係を構築する場として、改めてその存在意義が増していると感じています。

（昭六〇卒　福島支部）

学びを止めないために今、学校では

国見町立県北中学校
校長　阿部央

令和二年四月、各学校では様々な制限の中で入学式が行われました。令和という新たな時代を迎えて間もなく、新型コロナウイルス感染症拡大という緊急事態に直面しました。あれから三年の歳月が流れようとしています。三年前は、目に見えない恐怖と危険から、子どもたちと教職員の生命を守らなければという思いで、修学旅行の中止、文化祭や卒業式等、様々な行事の簡素化を決断しました。あの時の決断は本当に正しかったのだろうかと、今でも振り返ることがあります。「コロナだから仕方なかった。」と言い訳をしている自分と、「もっと何ができたのではないか。」と反省している自分が共存しています。

十二年前の東日本大震災と福島第一原子力発電所事故による学校機能の損失、放射能という見えない恐怖。そのような中で、本県の教職員は「学校は復興の最大の拠点」を合言葉に、子どもたちの心と体を守るため、そして、教育環境の復旧・復興のため、数多くの困難を乗り越えてきました。新型コロナウイルス感染症はあの時のことを鮮明に思い出させます。震災から十二年、新型コロナウイルス感染症発生から三年が経過しようとしている今、各学校では感染状況を注視しながら、修学旅行や文化祭等、子どもたちが楽しみにしている行事を、時期や方法を工夫しながら実施しています。本校では修学旅行の前週に感染拡大が懸念されたため、思い切った臨時休業措置等、可能な限りの対策を取り、修学旅行の実施に繋げました。学校では、子どもたちの学びを止めないように、教職員の英知と子どもたちのアイディアを結集しながら、方法を工夫し前に進んでいます。新型感染症拡大によって、ＧＩＧＡスクール構想実現に向けた取組も加速しました。教職員と生徒一人一人にタブレットが行き渡り、授業での活用頻度も高まってきました。黒板とチョークに終始する授業は姿を消しつつあります。ＩＣＴ機器の効果的な活用について日々の授業で探りながら、子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現を目指しています。

間もなく、東日本大震災を経験していない子どもたちが中学校に入学してきます。あの日の出来事を風化させないことは、福島県に生きる者としての使命です。十二年前に本県で何が起こったのかを、自分の言葉で説明することができる

次頁へ↖

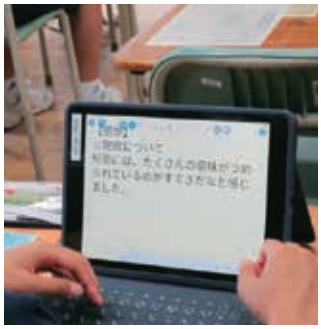
コロナ禍の学校では…

福島県中学校長会副会長
郡山市立郡山第六中学校長
芳賀　俊幸

新型コロナウイルス対応に追われる日々が三年となり、「非日常」が新たな「日常」となりつつあります。

マスクの適切な着脱、常時換気、手洗い・手指消毒、三密回避、黙食など学校での励行のみならず、各家庭にも理解と協力を依頼し、学校と家庭が一体となって感染予防対策を継続しています。

各種大会やコンクールでも制限やきまりがたくさんあります。「保護者の観覧・鑑賞禁止、あるいは保護者の人数制限」、「マスク着用による競技、コンクールへの参加」、「検温や体調の記入用紙の提出」、「他団体との接触は一切禁止」、「声援はせず拍手のみの応援」など、人と人との間隔を確保し、感染防止に最大限の注意を払って大会運営を行っています。



学校行事では、「修学旅行の行き先、期間、交通手段などの変更」「文化祭の会場変更や学年別合唱祭の実施」「保護者観覧の自粛、授業参観の分散（学年別や出席番号別など）開催」「始・終業式の放送やＷＥＢによる実施」など、学校規模や目的により様々な考え得る対応をしています。

楽しい給食時間、生活班やグループで給食をいただいていました。三年前までは…。今は、教室で全員が前を向いて会話をせず給食をいただいています。「黙食」。食事中の会話を介して感染が拡大することを防ぐためには、仕方がないことと考えています。「黙食」は今や日常となり、当然の行動となっています。

ところで、現在、学校では生徒一人につきタブレット端末一台を配当しています。臨時休業や出席停止時に授業をライブ配信し、教育活動が止まらないよう工夫しています。また、長期休業中には、課題として活用できるソフトにより、学習状況をリアルタイムで確認できたり、課題テキスト購入などの保護者負担を軽減できたりしており、タブレットを効果的に使用しています。

教員が留意したいこととして、「タブレットなどのＩＣＴ機器を使うこと」が目的にならないようにすることが挙げられます。ペンで実際に「書く」ことを、苦手と感じる子どもが多くなっているように思います。コロナ禍で在宅時間が長くなり、スマホやＰＣなどＩＣＴ機器に触れる機会が多くなっている時だからこそ、本に親しんだりノートに記録したりする体験を、バランスよく生活に取り入れることができるようにしたいと思っています。

収束が見えないコロナ禍の生活が今後も続くことを想定し、子どもたちの安心安全を優先しつつ、保護者、地域の方々の理解と協力を得ながら、学校の教育活動を止めることなく一歩一歩着実に進むことができるようにしていきたいと考えています。

今後とも、吾峰会の皆様の変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

（昭六一卒　郡山支部）

高等学校現場の今

福島県立あさか開成高等学校
校長　金成　智子

新型コロナウイルスの感染が確認されてから三年がたちますが、未だに収束の見通しが立たない中、高等学校においても、感染拡大防止と教育活動を両立させようと創意工夫を続けているところです。各種学校行事についても、実施方法や形態等を工夫し、中止せずに何とか実施することはできないかと検討を重ねる中で、その教育活動の「目的」や「生徒に身に付けさせたい能力や資質は何か」を明確にすることの重要性に改めて気づかされています。

新型コロナウイルス感染症対応の他にも、「第七次福島県総合教育計画」及び「学びの変革推進プラン」のもとに、様々な改革、課題に取り組んでいるところです。

特に、県立高校においては、学校の特色化・魅力化をより推進させることが必要であり、今年度内に、各校の存在意義、期待される社会的役割及び目指すべき学校像を明確にした「スクール・ミッション」が策定・公表されることとなっております。これを踏まえ、次年度には、各校において「スクール・ポリシー」を策定・公表することとなります。「育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）」「教育課程の編成方針及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」「入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）」の三つの方針を策定することとなることから、改めて自校の在り方を問われることになると考えております。県立高校改革については、現在、前期実施計画に基づき改革が進められていますが、令和四年二月に後期実施計画が策定・公表されたことから、これに基づく改革懇談会が開催されております。

また、高等学校では、今年度から新学習指導要領が本格実施（令和四年度入学生から学年進行）となり、履修科目や学習内容が大きく変わっています。同時に今年度入学生から、「一人一台タブレット端末配当」（世帯所得に応じた補助制度あり）環境での学習が始まり、ＩＣＴのより効果的な活用が求められております。このことから、教育活動の柱でもある授業の改革をより一層推進する必要があると考えているところです。

その他にも、教職員の働き方改革、地域との連携・協働の推進など、課題は山積しておりますが、東日本大震災後、前例のない災害・原発事故への対応、そして復興に向け、知恵を出し合い協働して取り組んできたという本県ならではの経験を生かし、未来を担う子ども達のために精一杯努めて参りたいと思います。

（昭六三卒　郡山支部）

前頁より

生徒を育成するためにも、防災教育と放射線教育のさらなる充実を図っていく必要があります。様々な困難に直面しながら、教職員と子どもたちは日々成長しています。

（昭六〇卒　伊達支部）

今、教育行政に携わって Ⅰ

川俣の教育の未来予想図を描く

川俣町教育長　佐久間　裕　晴

今、私たちを取り巻く社会は、グローバル化・情報化など急激に変化しています。学校現場も同様です。また、川俣町の子どもたちの減少は、大震災以降、想定以上に進んでいます。

教育委員会では、これからの社会や町の状況をしっかりと見据えた、町の教育の指針が必要との認識のもと、検討委員会を設置し、川俣の教育「シルクプラン」構想を策定しました。いわゆる教育の未来予想図です。この構想は、「絹の町川俣」の絹の持つ魅力、しなやかで強靱、繊細で、しかも輝く美しさを持つ絹のイメージを育むべき子どもの姿としました。学習環境の整備とともに、一人一人の学びと育ちを幼・小・中が連携してしっかりと見取りながら、個の可能性を伸ばしていく、０才児からの一貫した保育・教育を展開していくための構想です。詳細は、省かせていただきますが、取組の一部を紹介します。

○学校等の再編による学びの環境の整備

今年度、町内の小学校五校を再編し、川俣小学校の校舎等を改修し、新生「川俣小学校（十五学級）」が開校しました。また、来年四月には、旧川俣南小学校を改修して新たに幼保連携型「かわまた認定こども園」を開設します。

先んじて避難指示解除となり、四年前再開した山木屋小中学校は、少人数による特色ある山木屋の教育を推進するとともに、弾力的な学区の運用を図り、転入学の範囲を広げることとしました。

○川俣ならではの教育の実現

「未来にはばたく地球人プロジェクト」事業として、①子どもの感性と好奇心の醸成を重視した幼児期からの科学教育の推進②小学生の英語合宿、中・高生の北海道栗山町での英語コミュニケーションスキル研修。また、小学生のジュニア英検や中学生の英検の費用補助など外国語教育の推進③未来の担い手である子どもたちによる「ＳＤＧｓ」チャレンジ支援④ＩＣＴを活用した授業改善など…。

特に「ＳＤＧｓ」の取組は、近畿大学と連携し、発達に応じた探究型の学習を取り入れるための教職員研修や実践研究を行っていますが、子どもたちにとっても、未来を考え、自らの未来予想図をもつ良い機会にしてほしいと考えています。

（昭五三卒　福島支部）

特別寄稿 Ⅰ

教師にとって幸せとは

福島大学人間発達文化学類
附属学校臨床支援センター
教授　宗　形　潤　子

「僕、いいこと思いついちゃった！」「○○さんは水持ってきて、私は道を作るね!!」「だったら□□しようよ」、これらは砂場で遊ぶ子どもたちから聞こえる声である。歓声をあげて夢中で遊ぶ姿、自分のやりたいことに向かって試行錯誤する姿、自然に友達と結び付き遊びを広げていく姿、これらの姿を見る度、子どもというのは元来、明確な意思をもち、自己決定をし、仲間と関わりながら深く学ぶことができる存在なのだと感じる。子どもたちの様子ばかりではなく、大学においても、同じ思いを抱く瞬間がある。それは、学生たちが協働で新たな考えを生み出していく時、試行錯誤しながら豊かな活動を進めていく時、リフレクションの中に書かれる強い思いや考え抜かれた言葉に出あった時である。そのような場に立ち会う度、「ああ、今、彼らは、まさに学んでいるのだ」と実感する。砂遊びにおける子どもの姿、授業での学生たちの姿を見る時、いずれも私にとって幸せな瞬間である。

教師にとって幸せとは何か（もちろんであくまで仕事上のことであるが）、この答えは人それぞれであるとも言える。しかし、私は多くの教師に共通する答えがあるのではないかと考えている。それは、子どもが自ら学んでいく姿を目の当たりにすることである。社会や教育における大きな変化、コロナ禍、今、先生方は本当に忙しい。それでも、一人一人の子どもにとって最善のものを求め、常に工夫や努力を続けている。そのような先生方の姿を目にすると、やはり学校はかけがえのない場所であり、それを支えているのは先生方なのだと強く感じる。そして、日々の学校での生活が、子どもにとっても先生にとっても幸せなものであることを望まずにいられない。

私は、これまで多くの学校に足を運び、子どもたちや先生方と出会い、教師にとって幸せとは何かについてヒントをいただいてきたように思う。それは、「私の予想を遥かに超えて～したんですよ」「○○さんがこんなことまでできるなんて」「□□さんって本当に優しくて、昨日～」などと本当に嬉しそうに話す先生の姿である。それらの姿を見る度、これがまさに教師にとっての幸せなのではないかと感じる。実は、このような先生に共通していることがある。それは、子どもは自ら動き出す力をもっていると信じ、子どもに聞く、そして任せる場面がとても多いことである。そして、今度はどんな姿を見せてくれるのだろうとワクワクしながら、子どもを見つめ、支え、自己の捉えを日々更新している。（もちろんただ任せきりではなく、子どもをよく見つめるからこそ生まれた多くの気付きに基づき、関わり方や授業も進化させてもいる。）つまり、教師が幸せになるためには、子どもを信じて任せる先生の心持ちが必要不可欠だということである。社会も学校も難しい課題を抱えている今だからこそ、目の前の子どもをしっかり見つめ、一人一人の先生方が幸せであってほしいと切に願う。

（平一九院修）

「砂遊びの楽しさは大人も同じ」イベント

今、教育行政に携わって Ⅱ

保・幼・小・中の十五年間をつなぐ教育

湯川村教育長　佐原健一

一　はじめに

村教育委員会では、持続可能な村づくりのために教育の面からも村を活性化させるべく、一保育所、一幼稚園、二小学校、一中学校の五つの教育機関を一体的にとらえ、保・幼・小・中の十五年間をつなぐ「ゆがわっ子育成プラン」を作成して、次のような取組を行っている。

二　幼児教育の充実

保育所においては、生後六ヶ月から二歳までの乳幼児を受け入れており、保育料の値下げや多子世帯への軽減など子育て世帯の経済的な負担を軽減する「子育て支援」に努めている。

幼稚園においては、送迎バスの無料、兄姉が就学援助を受けている家庭や第三子以降の給食費無料などの支援も行っている。小学校との連携については、幼小連携部会において「幼稚園で育てたい十の姿」を共有し、接続カリキュラムを作成して「小一プロブレム」に対応することで、スムーズな接続に努めている。

三　学校教育の充実

コロナ禍においても確かな学びを保障するために校園長会、学力向上推進会議において「ゆがわっ子育成プラン」について協議し、実践を進めている。

授業研究会では、既習事項や既往経験と結び付けた興味・関心を高める導入、一人一人に考えを持たせる手立て、ペアによる伝え合い・教え合い、複数の考えを共有化する大型モニターやタブレットを利用した発表や話し合いなどの様々な工夫によって、「わかる、できる」授業を目指している。また、事後研究協議では、指導のアイディアや子どもの考えの見取り方など学級経営のポイントを含めて共有し合っている。

今後も村教育委員会として、子どもの発達や学びの連続性を意識した、「つなぎ」教育を推進していくことで、十五年間をつなぐ「ゆがわっ子育成プラン」の実現を目指して学校教育の充実を図っていきたい。

四　むすびに

子どもたちには郷土湯川村のよさを理解し、「湯川村の小学校に通えてよかった」「湯川中学校を卒業できてよかった」と感じてほしい。そして、子どもたちが、高校、大学、社会人になった時、自分は「湯川村出身です」と、自信と誇りを持って言える人間に成長していくことを願っている。

そのためにも、村教育委員会として教育環境がさらに充実したものとなるよう努めていきたい。

（昭五五卒　河沼支部）

タブレットを利用した発表・話し合い活動

特別寄稿 Ⅱ

同窓の便りが「つなぐ」世界

～会報「吾峰」一五〇号に寄せて～

筑波大学芸術専門学群芸術系教授　菅野智明

この度は、『吾峰』第百五十号のご発行、本当におめでとうございました。心よりお慶び申し上げますとともに、永年にわたる様々な情報のご提供に、厚く御礼申し上げます。

本紙では、いつも随所にお世話になった方々のお名前が拝見でき、その時代にタイムスリップするような懐かしさを覚えております。それと同時に、各号満載の新鮮なニュースには、ある種のピアサポート（仲間同士の支え合い）を実感しております。現職・退職を問わず、会員の皆様が各方面でご活躍の記事には、元気のお裾分けを頂戴しております。とりわけ震災やコロナ禍など、苦境に立ち向かう皆様の声は、大きな道標とするところです。

本紙は「つなぐ」が大きなテーマであると拝見いたします。私事になりますが、本紙が「つなぐ」世界は、私にとって幾重にも層をなしています。私が同窓生として本紙につながることは勿論ですが、母校たる福島大学教育学部で教鞭を執ったことから、同窓生を送り出す側の大学教員としてもつながっております。加えて、吾峰会広報部長として本紙の編集委員長をご担当の平野哲哉先生は、実は私の師であり、本紙を恩師ご編集の賜物として拝見できることも、おそらく私個人の格別のつながりと言えます。

先生とのご縁は、一九七四年に遡ります。川俣町立小綱木小学校で、ご担任いただきました。卒業後、月並みにしばしばご挨拶の機会はありましたが、話はその先です。二〇〇二年は、私の福島大勤務の最終年度でした。実はこの年に、平野先生が教育実践センターの客員助教授にご就任なされたのです（後に特任教授）。小学校時代の師弟がともに母校の大学に奉職することになるとは、数奇なめぐり合わせを感ぜずにはいられません。当時、朝の通勤電車で時折ご一緒させていただき、思い出話に花を咲かせたことが、昨日のように思い起されます。

話はまた小綱木小学校時代に戻りますが、先生はほぼ毎週、『かぜ』という学級便りを発行してくださいました。もとより当時はガリ版でした。今思えば、先生自ら鉄筆を揮われた一文字一文字には、いつも温もりがこもっておりました。その温もりに十二人しかいないクラスメートと、親御さんたちはつながっていたと思います。卒業時には、先生の座右の銘である「継続は力なり」という言葉とともに、『かぜ』各号の合冊号をいただきました。合冊の厚みは、まさしく「継続」の目に見える成果です。

現在、私は折に触れ「継続は力なり」の言葉を指導下の学生に贈っています。嬉しいことに、この言葉は、留学生を介して海外にも広まりつつあります。こうしたことから、私にとって同窓の便りは『かぜ』から『吾峰』へつながっております。そして、その便りが届ける言葉も、時空を超えて広く共有されることを確信しております。

（平成元卒）

二〇二二年度 賀寿該当者 長寿おめでとうございます

今年度の賀寿贈呈該当者は、昭和二年四月～昭和三年三月末日生まれの方です。

⊙永塚　広吉様　岩瀬
・熊田　守様　郡山
⊙林　一男様　双葉
⊙石井　操一様　会津
⊙松永　則暢様　南会津
⊙佐久間幸良様　福島
・鈴木　澄子様　郡山
・五十嵐コウ様　郡山
・五十嵐睦子様　会津
・井本　陽子様　福島
⊙満田　良朔様　郡山
⊙下山田政清様　いわき
⊙遠藤ミツイ様　河沼
⊙石井喜美雄様　いわき
⊙阿部　貢様　福島
・佐久間アヤ様　安達
・渡辺　昭子様　いわき
・鈴木　一右様　郡山
・近内　カネ様　東白川
⊙渡辺　トミ様　福島
⊙畠山ミヤ子様　岩瀬
⊙大竹　綾子様　会津
⊙三田　行雄様　郡山
⊙渡部　昌子様　会津
・田原口　圭様　相馬
・吉田　正美様　郡山
・菊田　智様　安達
・原　泰子様　大沼

⊙は前一四九号で紹介された方

畠山ミヤ子様（岩瀬）

骨折をするまでは、遠くまで歩いて買い物にも出かけたそうです。「年齢のことを考えないで、日々生活することが長生きの秘訣」とのお話が印象的でした。

林　一男様（双葉）

「よくぞ、ここまで……。一という感じです。これからも、卒寿を迎えた妻と共に、殊更に一日一日を大切に過ごしていきたいと希っています。ありがとうございました。

⊙は今回紹介された方

遠藤ミツイ様（河沼）

現職時は、小学校及び中学校の体育科の教師として勤めていました。現在は、週１回の歌（能）のお稽古が健康の秘訣であり、楽しみとしています。

大竹綾子様（会津）

昭和21年から教職に就きましたが、結婚により４年間で退職。その後、子育てと華道の習得60年でした。現在は、夫との老々介護の日々です。

石井操一様（会津）

学校では、体育やバレーボールの顧問として生徒と共に活動。退職後はゲートボールに打ち込み、今でも全国大会出場をめざしています。

石井喜美雄様（いわき）

足腰が弱られたとのことで、施設に入所されました。自宅に伺い、奥様に賀寿の表彰状と記念品をお渡ししてきました。次年度は奥様の英子様が賀寿該当者です。

三田行雄様（郡山）

支部長当時の苦労話や吾峰会郡山支部詩吟クラブで活動のお話をされ、元気の源はこの詩吟にあると腹にこもった素晴らしい詩吟をご披露いただきました。

松永則暢様（南会津）

終戦間際の青年師範時代や殆ど地元で勤務された教員・管理職時代の思い出を懐かしみながら話されました。今もお元気でおられます。

渡部昌子様（会津）

学生時代は戦争中で、本当に大変しだったようです。しかし、教師として40年間を無事に勤め上げることができ、教え子から時々連絡があり、幸せな毎日とのことです。

阿部　貢様（福島）

初任地の東山小学校の思い出等を拝聴しました。とてもお元気で、長生きの秘訣は親からいただいた健康な体、野菜作り、ゲートボールだそうです。

佐久間幸良様（福島）

一〇四ヶ国・地域の外国旅行の思い出の品が飾られた部屋でお話を聞きました。今は、三十分ランニングマシーンでの運動をし、元気にお過ごしでした。

一枚の写真から

教員を退職してから、福井県の小浜市に住んでいます。早朝、絵を描くのが私の日課になりました。描くものは近所の風景です。

朝の冷たい空気の中で、心を澄ませるように、制作していると、心身ともに少し健康になる気がします。

それが、私の絵を描く理由のひとつです。

（昭五五卒　福井県在住）

井上　隆宏

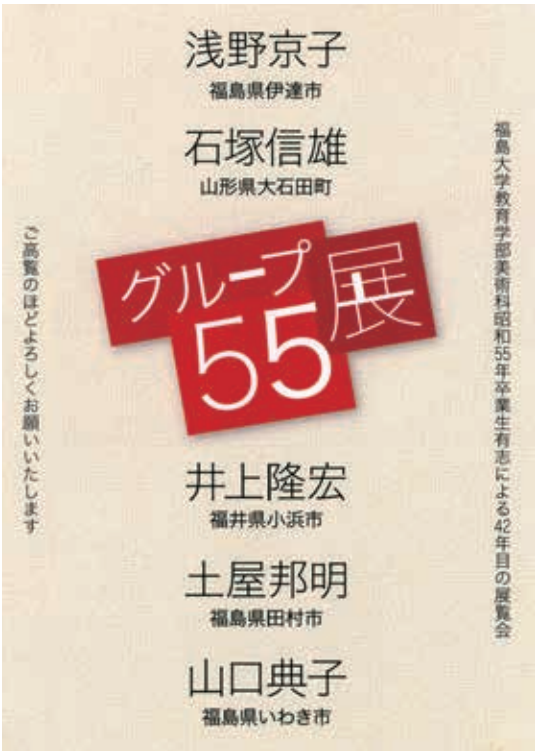
沖縄返還の頃、旧葵寮で四年間過ごしました。寮での出会いや経験は、一生の宝となりました。寮委員や自治会活動も懐かしい思い出です。県内外にいる当時の仲間が今でも集まっています。

写真は被災地視察時松島にて。

（昭五三卒　南会津支部）

吉津　和子

仲間たちの「想い」発信⇔受信



四十二年目の「グループ55展」に寄せて

浅野　京子

昨年の県展で四人が顔を会わせたことを機に不意に持ち上がった展覧会の企画。三十年でも四十年でもなく何とも中途半端な四十二年目。思い立ったが吉日で、福島、山形、福井という遠距離も何のその、ラインやメールという今時のツールを大いに活用し、展覧会開催にこぎつけることができました。

会の名称も紆余曲折を経て、「グループ55展」と決まり、いろいろな方の応援を受け、盛況のうちに終了することができました。

昔、同じ時間を共有した友達は、四十二年の時を軽々と越えてしまう喜びも収穫の一つでした。次は、八人揃っての「グループゴーゴー展」にしたいものです。

（昭五五卒　伊達支部）

お礼状

松田　貞夫

晩秋の候、みなさまには益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さてこの度とうほう・みんなの文化センターで開催しました第五十九回創美展に、お忙しい中ご来場いただき厚く御礼申し上げます。

今回は、『今年も咲いた』「長楽寺」「青い麦」の三点を出品いたしました。まだまだ未熟ですので、今後とも精進・努力して参りたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

（昭四五卒　福島支部）

会報「吾峰」一五〇号に寄せる　150　文字の想い

あの頃はみんな若かった。卒後四十二年ぶりに開かれた「グループ55展」。最終日には出品者五名が集合し、気持ちは学生時代に。会期中は三年後輩の三浦浩喜福島大学長、恩師の熊田喜宣先生、片野一先生、先輩後輩も数多く訪れてくださり、感謝いたします。全員今後も制作に励み、数年後に再度グループ展を開催することを約束いたしました。

山口　典子
（昭五五卒　いわき市在住）

福島大学　人間発達文化学類

第120号（令和４年７月発行）

後援会報 紹介

～120号にして初めての紹介～

会　　長　柳沼雅俊（昭55卒郡山支部）
事務担当　渡部洋子（吾峰会々員）
教職相談員　山縣眞二（P⑪に紹介）

自分の良さを磨く有意義な学生生活を

後援会会長　柳沼雅俊

福島大学人間発達文化学類に入学された学生の皆さん、そして保護者の皆様、誠におめでとうございます。衷心よりお祝い申し上げます。私は、本年度後援会長を務めます柳沼雅俊です。よろしくお願いいたします。

本後援会は、大学当局及び後援会の皆様のご理解とご支援をいただきながら、学生の皆さんの充実した学生生活や就職活動の支援等を中心に活動してまいります。

ところで、早いもので、コロナ禍の夏も三回目を迎えようとしています。これまで、皆さんの学びや学生生活にも大きな影響があったことと思います。この逆境にも負けずに努力している皆さんを誇りに思っております。

さて学生の皆さんは、古い神社や仏閣を訪ねたことはあるでしょうか。手入れの行き届いた日本庭園の美しさや、歴史を重ねた建物の趣に感動し、言葉を失ってしまうことさえあります。また、数百年も前の先人達も同じ石段や廊下を歩んだのかと思いをはせただけで、歴史の重厚さに身が引き締まる思いもいたします。

それらの中で、取分け私が心を惹かれたものは、欅の一枚戸や床板に浮かび上がった木目の美しさです。数百年にわたり磨き上げられてきたからでしょうか、俄かには作れない美しさを感じるのです。

ご承知のように、木目は厳しい冬をじっと堪えた期間と、陽光を浴びてすくすく成長した期間の繰り返しの履歴であり、一つとして同じものはありません。私は、皆さんがこれまで築き上げてきた自らの木目を磨き上げ、自分が本来持つ良さを最大限に引き出すべく、充実した学生生活を送っていただきたいのです。そして、やがては歴史ある建造物の木目と同様の美しさに昇華していってほしいのです。

その為に、本後援会としてできる限りの支援をしていきたいと考えております。

結びに、関係の皆様に温かいご指導を賜りますようお願い申し上げて挨拶と致します。

（第一二〇号(1)頁より）

コロナ禍三年目を迎えて

人間発達文化学類長　初澤敏生

人間発達文化学類長の初澤敏生と申します。この場をお借りしまして、ご挨拶と最近の大学の動向につきましてご報告させていただきます。

まず、後援会の皆様の学類の教育活動に対する日頃のご理解とご支援に対しまして心より御礼申し上げます。また、三年目に入りましたコロナ禍の中で、学生の学びを続けるためにお力添えを頂いていることに感謝申し上げます。

昨年度より、感染拡大に留意しながらも対面授業を再開し、現在では全体の約九五％の授業が対面で行われています。教室では入室者数を定員の半分に制限し、座席を一つおきに利用して密を防いでいます。また、学年開始当初には昼休みなどに教職員が教室や食堂などを巡回し、マスクをつけていない学生に注意するなどの活動を行いました。サークル活動なども徐々にですが再開が進み、コロナ禍以前の姿が戻ってきたようにも感じます。

しかし、学生の感染者数は今年度に入って大幅に増加する勢いを示しています。決してコロナがなくなって正常化した訳ではありません。特に市中感染による拡大が目立ちます。長期にわたる制限された生活の中で、我慢も限界を迎えているのかもしれません。コロナの危険性については様々な情報が報道されていますが、死者数の多さや後遺症の深刻さなどを考えれば、決して軽視はできません。対面授業を維持しつつも、十分な警戒を続けていきます。

昨年度は大学のワクチンへの対応が遅れ、大変なご心配をおかけしました。今年度は福島市のご協力をいただき、二日間にわたって大学内にワクチン接種会場を設置して希望者への接種を行いました。しかし、学生のワクチンへの関心は昨年度に比べるとかなり低下しているように感じます。今年度に入って、ワクチン接種をしていない学生がコロナに感染するケースが少なからず見られるようになりました。ワクチンはコロナに感染しても重症化しにくい効果があるとされています。住民票を移動しないまま福島市に居住されている学生の場合は、ワクチン接種の案内が実家に送られているケースもあると思います。そのような場合は、夏休みに帰省された際に接種を勧めていただければ幸いです。

また、教育実習などにあたり、実習先からＰＣＲ検査などを求められた際など、後援会のご支援をいただいております。皆様のご厚情に心よりお礼を申し上げます。

このように様々なご支援を受けているにもかかわらず、感染拡大防止のため、総会や相談会など、後援会と大学とを結ぶ重要な会合が開けませんでした。入学式・卒業式なども関係者のみで開催し、お子様の晴れ姿をご覧いただけなかったこと、また、大学生活の重要な思い出となる学園祭も制限しなければならなかったこと、心よりお詫び申し上げます。もし、お気掛かりなことがあれば、大学に直接ご連絡ください。連絡先は大学のホームページをご覧ください。

末筆となりましたが、後援会の皆様の益々のご発展を祈念いたします。今後も、人間発達文化学類に対するご理解とご支援のほど、お願い申し上げます。

（第一二〇号(1)頁より）

新卒者の職場奮闘記

今春、人間発達文化学類を卒業し、教員、公務員、企業の社員となって働き始めた四名の皆さんから、それぞれの職場で社会人一年生として奮闘している様子を報告していただきました。

生徒と共に

福島県立南会津高等学校
高田　明日香

着任から早数ヶ月、目まぐるしい日々に圧倒されながらも、充実した毎日を過ごしています。私は主に、一学年と三学年の国語科の授業を担当しています。生徒の反応に手ごたえを感じることもあれば、生徒の理解を促す難しさを感じることもあり、毎日が試行錯誤の連続です。私が勤務する学校は、教員の数が少ない小規模校のため、特別支援コーディネーターや生徒会の顧問、その他の校務分掌など、様々な仕事を任せていただいています。大変なこともありますが、周りの先生方に助けていただきながら、一つひとつの仕事に取り組んでいます。教員として働き始めて感じたことは、大学で学んだことが拠り所となっているということです。授業や生徒との関わり、同僚の先生方との関わりなど、多くの場面で、大学時代に先生方から教えていただいたことに支えられています。

休み時間や放課後に生徒の質問に答える個別指導が盛んであったり、寮生活を送る生徒と過ごす舎監業務があったりと、生徒との密接な関わりがあるのも本校の特徴です。生徒たちとの生活は本当に楽しく、教員としてのやりがいを感じています。生徒と共に学び、成長していけるよう、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。

（令四卒）

＊　＊　＊　＊　＊

（後援会報一二〇号(3)頁）

他に次の三名の方の「職場奮戦記」が報告されています。

○近　日奈子（県外小学校）
○長谷川順也（国税庁）
○吉永　和起（一般企業）

就活を通して見た、福大生の学生気質について

人間発達文化学類
教職相談員　山縣　眞二

十月二十九日(土)と三十日(日)、二年間コロナ禍により制限されていた福大祭が、通常通り一般公開の形で開催されました。

今年で、五十八回目だそうです。サークルによるイベントや、屋内外の企画・模擬店も開催され、みな笑顔にあふれ、とても嬉しそうで、学内が華やぎました。学生たちは、どの場面を見ても、学類の垣根を越え、久しぶりの大学祭の成功のために、献身的に活動する様子が見られました。

私は、五十四年卒の、浜田町最後の生き残りです。あの当時は、森合にあった経済学部と教育学部は、同じ福大といっても、あまり一体感を感じないで、生活していたように思います。

しかしながら、五学類体制となった現在は、どの学類といった学生の意識はほとんどなく、多様性を受け入れる中で、お互いによい刺激を与えながら、生活しているように思います。

本相談室が主催する教採セミナーでも、学類を問わず希望者を受け入れ、数の差はありますが、全学類の学生が、特に意識することなく、よりよい教師になろうという目的を共有し合いながら、仲よく就活に取り組んでいます。

人間発達の学生が、「鬼」と呼ばれながらも、他学類の学生の模擬面接に、真剣に取り組む姿は、逞しくも微笑ましいものでした。

また、第七波において、論文の検討や集団討議、模擬面接など、本来対面で行われるべき「協働的な学び」の実施が困難を極める中、経済の一人の学生が、得意なＩＣＴの活用とマネジメント力を発揮し、遠隔による協働の学びのシステムを作りあげてくれたことは、本セミナーにとって、大きな力となりました。

その結果として、人間発達文化学類からは、昨年を上回る現役合格者を出すことができました。更に、経済、理工、食農の各学類からは、福島県立高等学校の商業科、工業科、農業科において、そして、行政政策学類からは、中学校社会科の合格者が出ました。

初の卒業生を出す、食農学類からの現役合格は、特筆すべきことです。

このように、今の福大生は、「多様性」を受け入れるという気質を共有し、お互いを磨き会いながら、進路の実現を図っています。

人間発達文化学類の学生についていえば、総じて清潔で礼儀正しく親切です。考え方は堅実で、教員を含む公務員や民間企業といった、安定した職への志向が高いです。彼らの言動から伝わる、家族やふるさとへの思いにも、優しさが感じられます。

そういった気質は、我々浜田町時代のものと、ほとんど変わるものがないように、私には思えます。

最後に、今後十年の課題として、定年延長や更なる少子化による、教員採用環境の変化があげられます。

今回、福大生の気質として述べた「多様性」が、本課題の解決に役立つことを期待しています。

（昭五四卒　福島支部）

3年ぶり、にぎやかに大学祭（山縣氏提供）

教職相談室の紹介

教員を目指す学生の支援を目的に、人間発達文化学類213号室に教職相談室を設けています。

元小学校校長として豊富な現場経験をもつ相談員が、教員採用試験対策を中心に、「学生自身の学び」をサポートしています。

利用方法はキャリア支援課または人間発達文化学類後援会で確認してください。

これまで行っていた対面での相談のほかに、Googleカレンダーによる予約システムを使って、ZoomやMeetによる遠隔相談も行うようになりました。

【プロフィール】
山縣（やまがた）　眞二（しんじ）　先生
元 福島市立福島第三小学校 校長
趣味：カヌー、アウトドア、日曜大工、映画、落語、旅行

（後援会報一二〇号(10)頁より）

吾峰人のお名前　見ました　聞きました Ⅰ

（敬称略　Ⓢ…新聞、Ⓣ…テレビ、Ⓩ…その他）

①鈴木　淑子　Ⓢ「みんゆう随想」～「ポケットに日葵の種を」「２大連邦解体のあと」～他

②長沢　文治　Ⓢ「新聞投書欄」～ヤングケアラー実態把握を～「旧統一教会本県への影響は～」

③佐藤　浩哉　Ⓢ「待ってた 夏休み！」～一学期の終業式～桑折町立伊達崎小学校校長の話～

④丹治　秀樹　Ⓣ「福島市立福島第四小学校第一学期終業式」校長の話

⑤山本　巌　Ⓣ「福島市立三河台小学校第一学期終業式」校長の話。「学級閉鎖などによる備え確認」～福島市一斉オンライン授業～談話

⑥沢　宏一　Ⓢ「沢さん（いわき）絵本で夢を」～23日から心温まる原画展～

⑦増子　春夫　Ⓣ「郡山市立芳賀小学校第二学期始業式」テレビ放送による校長の話

⑧松﨑　健一　Ⓣ「いわき市立中央台東小学校第二学期始業式」校長の話

⑨齋藤　雅敏　Ⓣ「福島市立福島第三小学校第二学期終業式」校長の話

⑩新井　浩　Ⓢ「米沢藩士 愛される像に」～福島大・新井教授が鋭意制作・雲井龍雄の足跡知って

⑪柴崎　茂　Ⓢ「川柳」～要塞か原爆になるか発電所

⑫五十嵐利明　Ⓣ「絶景を求めて.in駒止湿原」～天空の

④ 丹治秀樹校長
ＴＶローカルニュース

⑤ 山本　巌校長
ＴＶローカルニュース

⑦ 増子春夫校長
ＴＶローカルニュース

⑧ 松﨑健一校長
ＴＶローカルニュース

⑨ 齋藤雅敏校長
ＴＶローカルニュース

⑫ 五十嵐利明さん
ＴＶローカル番組

⑬和合　亮一　お花畑・南会津町～案内人を務める

⑭丹治　良恵　Ⓢ「厄災を超え 生きる言葉」～和合さん、国際芸術祭（愛知）出展～「不条理を抱える世界の現在を記録し、見つめていきたい」「双葉のために詩 復興エール」～他多

⑮日下部善己　Ⓣ「福島市新型コロナ感染拡大に…小中学校一斉にオンライン授業」授業者：市立三河台小学校教諭

⑯故岡山　直　Ⓢ「第45回民報出版文化賞正賞受賞」～ふくしまの地域社会を活かす人びと～

⑰沢　導子　Ⓢ「三春の〝名音楽家〟に光」～多くの校歌手がける・愛用ピアノ町役場に～

⑱湯田　一秋　Ⓢ「民報みんなのひろば」～芋料理と果物「秋」を味わう～

⑲庄司　一幸　Ⓢ「民報俳句：新涼や猫の駅長撮影会」「民友俳句：かなしくて鳴く虫もあり老いの庭」

⑳古関　明善　Ⓢ「久米正雄両親の墓誌設置」～研究家庄司さんら有志～調査判明の戒名刻む。他

㉑佐藤　秀美　Ⓢ「古関教育長が退任」～福島市任期満了、見送り

㉒佐藤　富子　Ⓢ「佐藤教育長に辞令」～福島市が交付

㉓佐藤　富子　Ⓢ「教育は未来をつくる」～佐藤教育長抱負

㉔小野　恭雪　Ⓢ「新聞投書欄」～病院で出会った親切な男性～（旧性平野：昭三九卒）

㉕伊藤　敏江　Ⓢ「佐藤さん表彰」～本年度社会教育功労者大臣表彰～（旧性吉田：昭三九卒）

㉖菅野　善昌　Ⓢ「新聞投書欄」～大波兄弟も大相撲の看板に～リサイクル籠設置 良い発想～

㉗古川　道子　Ⓢ「新聞投書欄」～友人と中尊寺に 西行の歌会参加～

㉘佐藤俊市郎　Ⓢ「感染予防対策の徹底とコロナを言い訳にしない教育」～第50回県中学校長会研究協議会での講演～

㉙武石この実　Ⓢ「新聞投書欄」～只見駅見学45年前の思い出～

㉚三浦　浩喜　Ⓢ「県産食材活用推進団体や個人を表彰」～県学校給食会・研究会～会長として賞讃辞と表彰状の授与

㉛中田スウラ　Ⓢ「東邦銀の武石引退」～東邦銀行陸上競技部女子４００メートル活躍・引退後同行に勤務

㉜草野　芳明　Ⓢ「福島大学経済学類創立１００周年記念式典」であいさつ・記念講演。「ホームカミングデー」であいさつ・大学からの近況報告。

㉝本田　純一　Ⓢ「２０２２知事選福島のこれから」～学校と地域「協働進めて～課題共有、解決へ好循環～学力、視点の転換必要～インタビュー談

㉞須藤　健　Ⓢ Ⓣ Ⓩ「２０２２福島県知事選挙に出馬」

㉟浅野　雅己　Ⓣ「鶴瓶の家族に乾杯」～下郷町立江川小学校へ訪問～教頭として対応

Ⓢ「自然のエネルギー感じて」～伊達・梁川元美術教員須藤さん絵画展～

Ⓢ「糸が紡ぐ双葉の未来」～来春に新工場 復興支える輸出拠点、安八の浅野撚

㊱千葉　英一
㊲橘　浩二郎
㊳竹之下道子
㊴大槻　隆志
㊵日下部文紀
㊶真田　秀男
㊷渡辺　知子
㊸遠藤　雄幸
番外堀　泰治

糸、社長は福島に縁　現地に若者採用～（中日新聞）～
Ⓢ「新聞読後感想文審査長　講評」
Ⓢ「川俣の球史を熱く語る」
Ⓢ「『母から子への手紙』入賞作品　佳作」
Ⓢ「『花いっぱいコンクール』上三宮小（喜多方）などに表彰状」校長として受け、談話
Ⓢ「丸山健二文学賞を受賞」～須賀川の秋沢陽吉さん・本名**日下部文紀**　小説「流謫の行路」～談話**沢正宏**福島大名誉教授
Ⓢ「BOOKカフェ」～吉田富三著「蜘蛛の子よ―詩と随想集」紹介文
Ⓢ「新聞投書欄」～目に焼き付く強く美しい母～
Ⓣ「村長さんリモート出演中」～村長さんに聞いてみた「ウチの村は日本一」～
Ⓢ「2021（令和3）年度生涯スポーツ功労者文部科学大臣表彰者（県グラウンド・ゴルフ協会長）

1「コロナ気遣い3度目の夏」7／21～県内公立小中学校で終業式Ⓢ～対策徹底呼びかけ等：いわき市立平第五小学校**大石正文**校長、福島市立信陵中学校**目黒　満**校長
2「吾妻中に保健室備品」～ワイヂーエルが寄贈～Ⓢ贈呈式で目録を受け取る：**渡部正晴**校長
3「丹精した絵画や写真」～5日まで県シルバー美術展～Ⓢ◇洋画▽県社会福祉協議会長賞：**浅野京子**▽福島民友新聞社長賞：**斎藤吉成**▽福島放送社長賞：**鈴木幸子**▽県老人クラブ連合会長賞・最高齢者賞：**西山允雄**◇写真▽佳作：**二瓶　亨**◇彫刻・工芸▽福島中央テレビ社長賞：**我彦ミキ子**

丹治良恵教諭
TVローカルニュース

本田純一教頭
全国版TV番組

4「グループ55展」～福島大学教育学部美術科昭和55年卒業生有志による42年目の展覧会～Ⓩ：**浅野京子、石塚信雄、井上隆宏、土屋邦明、山口典子**
5「二科展入選者」Ⓢ◇絵画部▽一般の部：**佐久間りん、椎名静雄**▽会員会友：**上石直美**
6「教諭ら研究成果披露」～福島大大学院が発表会～Ⓢ発表者：**松山翔後**県立あぶくま支援学校教諭、**鈴木貴人**福島大人間発達文化研究科教職実践専攻2年
7「美術振興に取り組む3人による個展」Ⓢ出展者：**酒井昌之**県美術協会長、**新井　浩**福大人間発達文化学類教授、他1名
8「福島大、独自テスト開発」～英語リスニングと記憶力同時に～小中学生向け、日本初～Ⓢ開発者：**佐久間康之**福島大学人間発達文化学類教授、**高木修一**同准教授
9「福島市民俳句」Ⓢ◇金賞**中川洋子、鎌倉厚子**
10「学びやに感謝と別れ」～浪江町9小中学校閉校式」Ⓢ式辞：**笠井淳一**教育長
11「只見線の体験、宝物に」～芳山小が「学習列車」～Ⓢ談話：**大知里重政**校長
12「勝俣農水副大臣が児童とともに稲刈り」～喜多方・加納小を視察～Ⓢ内容の説明：**伊達明美**校長
13「蓬莱小に畳10畳寄贈」～県畳工業組福島支部～Ⓢ受取者：**石井隆博**同校校長
14「川俣小に音響セット」～RCが開校記念で～Ⓢ受取者・謝辞：**小野真教**同校校長
15「第29回刻の会展」Ⓩ出品者：**関場弘子**
16「第59回日本画創美展」Ⓢ出品者：**松田貞夫**

須藤　健さん
福島民友

遠藤雄幸村長
全国版TV番組

17「川内産赤ワイン完成」～無ろ過瓶詰め、味わいふくよか～Ⓢ談話：**遠藤雄幸**同村長
18「福島大生　地域課題探る」～南相馬で「むらの大学」Ⓢ：**峯崎明日香**人間発達文化学類学生
19「文科大臣表彰」～地方教育行政功労本県から～Ⓢ：**佐藤吉郎**元大玉村教育長、**小野義明**郡山市教育長、**鈴木力雄**元北塩原村教育長
20「映像で歩みを回顧」～鳥川小130周年式典～Ⓢ：あいさつ**島田祥司**校長、祝辞**佐藤秀美**福島市教育長
21「○○校○○周年記念式典」～Ⓢ：あいさつ**斎藤　靖**福島県立安達東高等学校長、**佐藤浩哉**桑折町立伊達崎小学校長、**横山貴英**福島市立福島第一小学校長
22「猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォト」～Ⓢ：優秀賞…**山寺精吉**、水恋（スイレン）賞…**高橋　忠**
23「安積一小に備品贈る」～Ⓢ：受納者**山本　浩**校長
24「走り続ける川本監督と」～3年ぶり「ももりんダッシュ」～教え子疾走、盛り上がりに奔走～Ⓢ：「チーム川本レジェンズ」**二瓶秀子**笹谷小教諭、**吉田真希子**東邦銀行陸上競技部監督、**天下谷真弓**同コーチ、**久保倉里美**新潟アルビレックスランニングクラブコーチ、**千葉麻美**矢吹町職員
25「お母さんありがとう作文」Ⓢ：審査員**福地　理**大森小教諭
26「福島の元教員らあすから写真展」Ⓢ：来場の呼びかけ：**山寺精吉**会長
27「東日本女子駅伝選出卒業生へ激励金　福島明成高同窓会」Ⓢ：代理受取者**斎藤　修**同校教諭
28「第42回福島市小学生俳句コンクール表彰式」Ⓢ：同席**高橋　智**北沢又小学校長

※以下P⑯に掲載

「チーム川本レジェンズ」
のメンバー
福島民友

白沢和子さん（左から2人目）
福島民報

どなたか「紫雲寮歌」をご存じありませんか？

懐かしの紫雲寮歌

（私、久保田亮次は）
福島大学学芸学部二年課程、昭和二十九年入学、三十一年三月十五日まで、一九五四年から二年間です。紫雲寮歌１番、２番、４番を歌います。

♪　♪　♪

①花より花に響く鐘
移り行く世を継ぐる時
暁清き（あかつき）　若人が
目見揺るがぬ（まみ）　思いあり

②夏雲かかる　吾妻峰（あづまね）や
流れて清き　阿武隈の
里は自由の　旗高く
伝えし血潮　今ぞ涌く

③
④四年（よとせ）の春の　花吹雪
四年（よとせ）の秋に　散る紅葉（もみじ）
教えの光　求めては
治乱の跡を　思うかな

⑤
以上ですが、３番と５番は忘れたのでやりません。
以上で終わります。
（昭三一卒　双葉支部）

いわき市にお住いの久保田亮次さんから上記のようなＣＤをいただきました。

以前に久保田さんから丁寧な問い合わせの便りをいただきました。同年代で紫雲寮で学生生活を送られた齋藤正寛顧問に事務局から教示をおねがいしたところ、以下のような貴重な資料をいただきました。

もし、会員の皆様で情報を少しでも持ち合わせの方がいらっしゃったら、事務局へご一報願います。

福島大学学芸学部紫雲寮歌について

顧問　齋藤　正寛

私をはじめ数名の関係者で調べましたが、残念ながら見当たりませんでした。申し訳ありませんがご了承願います。

１．調査した刊行物・文書等

①　福島大学教育学部百年史 1974.11.3
②　同上　同窓吾峰会百十年史 1997.8.30
③　創立百三十周年記念
「吾峰会130年のあゆみ」2018.1.4
④　会報「吾峰」1～149号記事ナシ
⑤　各種公文書綴り　文書ナシ
⑥　福島大学概要、福島大学創立70周年記念誌など
記載ナシ

２．現在よく歌われているもの

①　福島大学学生歌「今日の世紀に」（昭和29年）
作詞　浅野　孔
作曲　甲斐山義弘
・学位記授与式・入学式・スポーツ大会等で斉唱
②　大学応援歌「若き血潮」（昭和30年）
作詞　半沢　繁　昭和31年卒
作曲　鎌田　昭治　昭和33年卒
③　大学応援歌「若き血のたぎる」（昭和30年）
作詞　小野寺敬彰　昭和34年卒
作曲　遠藤　健　昭和32年卒
④　※福島県師範学校校歌（昭和８年）
作詞　佐々木信綱
作曲　山田　耕筰
⑤　※福島県女子師範学校校歌（昭和３年）
作詞　相馬　御風
作曲　信時　潔

３．寮生全体として歌う寮歌はなかったのではないか？

①　吾峰会の出版物や会報には載っていない。
寮の制定委員会（例）が寮歌を募集していることや発表会のこと、作詞者・作曲者のことなどの文書ナシ
②　寮の行事や総会で歌ったことがない。（昭33卒齋藤）
③　昭和32～35年卒修の先生方に電話を入れたが、寮歌を歌った記憶がない、あったかどうか知らない。
④　紫雲寮内の私的なグループ、一部の部屋で歌われていたもので、寮歌と呼ばれる位置づけのものではなかった。

【図書等寄贈紹介】

○「小島　喜一」様
・福島中国交流史學 №14
・平島松尾顕彰会会報第16号
○「小野寺　寛」様
・新聞「胆江日日新聞」数回
○「久保田亮次」様
・CD「福島大学学芸学部紫雲寮寮歌」
○「宍戸　仙助」様
・会報「CSRスクエア第10号」

「つながる」―「むすぶ」―「広げる」

便りさまざま

【Eメール】

残暑お見舞い申し上げます。

この度は、貴誌「吾峰」第１４９号をご恵贈くださり、ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。本号でも、以前お世話になった先生方のお名前を随所に拝見し、大変懐かしく存じました。⑬頁⑩で習字作品展の審査員に丹治英郎先生や庄司久子先生のお名前があがっておりますが、お二人とも福島県書写書道教育研究会の歴代会長先生で、菅野は随分とお世話になりました。研究会の会合では、しばしばお二人のお車に便乗させていただいたものです。ご退職後も、地域の書写教育に尽力されているご様子で、本当に励みになります。

コロナ禍で帰省もままならず、このところ福島県書研への活動にも参加できていない状況ですが、頃合いを見て帰るつもりです。

取り急ぎ御礼のみにて失礼いたします。コロナに加え、猛暑も続きますが、どうぞご自愛くださいませ。

２０２２・８・１３
菅野智明（筑波大教授）

＊　＊　＊　＊　＊　＊

【メッセージ】

梅津浩子様

いつもお世話になっています。地元の中日新聞に浅野雅己さんの記事が載っていました。

今年もコロナが収まらず、いろいろな会が中止で残念ですね。来年はぜひ開催してほしいと思います。

七月に福島に行き、同級生とか研究室の仲間と会って来ました。来年はゆっくり福島の温泉でもと考えています。

また、５５理科（五九年卒）の同窓会を計画しているので四十五名中何名集まるかわかりませんが、半分は来ると期待しています。（今年、全員が定年をむかえました）

山田　稔
（昭五九卒　愛知支部）

会報「吾峰」へのご応募は下記でも受け付けています。
広報部長・会報編集委員長
平野　哲哉
〒960-0112
福島県福島市南矢野目字原下9-19
電話　024－553－6385
携帯　090－4041－4389

母校 福島大学・人間発達文化学類だより

福島大 学類長に初沢教授ら

初沢敏生氏

高橋準氏

井上健氏

長橋良隆氏

荒井聡氏

福島大は4日、次期5学類長を発表した。人間発達文化学類が初沢敏生教授(61)、行政政策学類が高橋準教授(58)、経済経営学類が井上健教授(54)、共生システム理工学類が長橋良隆教授(56)、食農学類が荒井聡教授(65)。

高橋、井上、荒井の3氏は新任。初沢、長橋の両氏は再任となる。任期は4月1日から2年。

初沢氏は埼玉県蕨市出身。立正大大学院を経て1988年に福島大教育学部助手、2007年に人間発達文化学類教授、21年から学類長。専門は経済地理学。

高橋氏は埼玉県狭山市出身。一橋大大学院を経て1995年に福島大行政社会学部講師。2010年から行政政策学類教授を務めている。専門は社会学。

井上氏は千葉県市原市出身。東大大学院を経て01年に福島大経済学部助教授、15年から経済経営学類教授を務める。専門は資源経済学、漁業経済学。

長橋氏は堺市出身。大阪市立大大学院を経て1997年に福島大教育学部助教授、2012年から共生システム理工学類教授を務める。専門は火山地質学など。

荒井氏は会津若松市出身。東北大大学院を経て19年から福島大食農学類教授を務める。専門は農業経営学、地域農業システム学。

（福島民友　2023.1.5）

大学院が新しくなります

大学のパンフレットの一部を縮小して紹介します。

新しい大学院のカタチ

【修士課程・博士前期課程・専門職学位課程】

現在 142名

- 人間発達文化研究科 40名
  - 教職実践専攻【教職大学院】（専門職学位課程 16名）
    - ●ミドル・リーダー養成コース
    - ●教育実践高度化コース
    - ●特別支援教育高度化コース
    - 学位：教職修士（専門職）　分野：教員養成関係
  - 地域文化創造専攻（修士課程 17名）
    - ●人間発達支援領域　●日英言語文化領域
    - ●地域生活文化領域　●数理科学領域
    - ●スポーツ健康科学領域　●芸術文化領域
    - 学位：修士（地域文化）　分野：教育学・保育学関係
  - 学校臨床心理専攻（修士課程 7名）
    - ●臨床心理領域
    - ●学校福祉臨床領域
    - 学位：修士（教育学）　分野：教育学・保育学関係
- 地域政策科学研究科 20名
  - 地域政策科学専攻（修士課程 20名）
    - ●地方行政　●社会経済法　●行政基礎法
    - ●社会計画　●地域文化
    - 学位：修士（地域政策）　分野：法学関係、社会学・社会福祉学関係
- 経済学研究科 22名
  - 経済学専攻（修士課程 10名）　学位：修士（経済学）　分野：経済学関係
  - 経営学専攻（修士課程 12名）　学位：修士（経済学）　分野：経済学関係
- 共生システム理工学研究科 60名
  - 共生システム理工学専攻（博士前期課程 53名）
    - ●数理・情報システム分野
    - ●物理・メカトロニクス分野
    - ●物質・エネルギー科学分野
    - ●生命・環境分野
    - 学位：修士（理工学）　分野：理学関係、工学関係
  - 環境放射能学専攻（博士前期課程 7名）
    - ●生態学分野　●モデリング分野
    - ●計測分野
    - 学位：修士（理工学）　分野：理学関係、工学関係

再編後（令和5年4月） 119名

- 地域デザイン科学研究科 42名 新設
  - 人間文化専攻（修士課程 20名）
    - ●言語文化コース　●地域文化コース
    - ●スポーツ・芸術文化コース　●人間発達心理コース
    - 学位：修士（人間文化）　分野：教育学・保育学関係
  - 地域政策科学専攻（修士課程 8名）
    - ●法・政策コース　●コミュニティ探究コース
    - 学位：修士（地域政策）　分野：法学関係、社会学・社会福祉学関係
  - 経済経営専攻（修士課程 14名）
    - ●経済学コース　●経営学コース
    - 学位：修士（経済学）　分野：経済学関係
- 教職実践研究科【教職大学院】 12名 新設
  - 教職高度化専攻（専門職学位課程 12名）
    - ●ミドル・リーダー養成コース　●授業デザインコース
    - ●特別支援教育コース
    - 学位：教職修士（専門職）　分野：教員養成関係
- 共生システム理工学研究科 45名 教育課程の見直し
  - 共生システム理工学専攻（博士前期課程 40名）
    - ●数理・情報システムコース　●物理・メカトロニクスコース
    - ●物質・エネルギー科学コース　●生命・環境コース
    - 学位：修士（理工学）　分野：理学関係、工学関係
  - 環境放射能学専攻（博士前期課程 5名）
    - ●環境放射能学コース
    - 学位：修士（理工学）　分野：理学関係、工学関係
- 食農科学研究科 20名 新設
  - 食農科学専攻（修士課程 20名）
    - ●食品科学コース　●農業生産科学コース
    - ●生産環境科学コース　●農業経営科学コース
    - 学位：修士（農学）　分野：農学関係

新研究科は令和5年4月設置に向けて申請中であり、内容等は今後変更となる場合があります。

新研究科は令和5年4月設置に向けて申請中であり、内容等は今後変更となる場合があります。

入学料・授業料（令和4年4月現在）

入学料	授業料（年額）
282,000円	535,800円

アクセス

電車　「福島駅」よりJR東北本線（約10分）「金谷川駅」下車徒歩10分

バス　「福島駅東口」5番ポールから「医大経由二本松行き」に乗車「福島大学」下車（所要時間約30分）

国立大学法人 福島大学 Fukushima University

WEB

【令和4年7月発行】

写真で見る 福島大学ホームカミングデー

令和四年十月三十日(日)開催される

福大祭入場門

大学祭　放送部

大学祭　アカペラサークル発表

学長あいさつ

大学祭　野外ステージ①

会　場

大学祭　野外ステージ②

一枚の写真から

あのときみんな、若かった！

土屋　邦明

九月に福島テルサで五十五年度卒の中学美術科のメンバーで四十二年目の初グループ展を開催しました。

沢山来ていただいた懐かしい方々と絵や昔のアルバムを見ながら話に花を咲かせました。

「時は流れない、それは積み重なる」ですね！

（昭五五卒　田村市在住）

吾峰人のお名前 見ました 聞きました Ⅱ

（敬称略　Ⓢ…新聞、Ⓣ…テレビ、Ⓩ…その他）

29「放射線教育の公開授業」Ⓢ：授業者**鈴木直子**

30「福島第一小学校創立150周年記念式典」Ⓢ：あいさつ **横山貴英**校長、**佐藤秀美**福島市教育長

31「教育に新聞を正しい情報選ぶ力養う」Ⓢ：談話**五十嵐洋之**半田醸芳小学校長、**千葉英一**北信中学校長

32「県教委が学力向上対策会議開く」Ⓢ：出席者**鳴川哲也**福島大准教授

33「第50回福島市民美術展覧会」Ⓢ◇洋画▽市美展特別賞：**宮田彰文**◇工芸▽市美展特別賞：**我彦ミキ子**◇写真▽寿賞：**梅津文子**

34「『王妃の銅像』完成」～福島・耳取川親水公園ひげの王様隣に設置 市長に目録渡す～Ⓢ制作者：**故白沢菊夫**元福島大教授、出席者**白沢和子**

35「心一つベスト出せた」～合奏日本一の橘小～Ⓢ：顧問談話**宍戸みゆき**教諭

36「よりよい学校考える」～小中高の校長ら研修～Ⓢ：講師**宮前　貢**元福大教授

37「福島の小学校に絵本贈る」～贈呈式～Ⓢ：受納者**佐藤秀美**教育長

38「福島県児童画展」～審査会～Ⓢ：審査委員長**渡部憲生**福島大特任教授

39「県声楽アンサンブルコンテスト開幕」～思い伝える歌笑顔で（平三小）～Ⓢ：顧問談話**大和田まひる**教諭

40「全国マーチング小学生の部」～吉井田、野田（福島）金賞～Ⓢ：顧問談話**油井敏郎**吉井田小教諭、**阿部俊之**野田小教諭、

41「優良ＰＴＡ文科大臣表彰受賞 喜び新た」～駒ヶ嶺小父母と教師の会が町の教育長に報告～Ⓢ：報告者**五十嵐隆之**校長

慎んでお悔やみ申し上げます

■　大槻　忠様　元本部常任理事

編集後記

▽前号の本欄で心配した会津若松大会が、コロナ禍の影響で中止となりました。会津五方部の諸準備に感謝し、本部の勇気ある決断に敬意を表します。次年度の大会に期待いたします。

▽本号は第一五〇号で、本会創立一三五周年の節目にあたります。峯島会長の巻頭言には、会報「吾峰」の歩みを述べて頂きました。「150文字の想い」や特別寄稿もお寄せ頂きました。また、多くの方から玉稿を頂き、教育現場の置かれている厳しい環境に適切に対応をされている様子に接し、力強く思いました。

▽福島県内外に在住の仲間が四十二年ぶりに「グループ55展」を開催されました。「つなぐ、むすぶ、ひろげる」ことにより吾峰会の存在が再確認されました。「一枚の写真から」「150文字の想い」が寄稿され、支部への登録にまで深化・拡充しました。

▽より多くの吾峰人を紹介しました。賀寿贈呈者は、年々多くなり、「お名前見ました」も現職の方など若い方の活躍も増加です。

▽愛読される会報を目指します。皆様のご指導をよろしくお願いいたします。（平野）

・会報「吾峰」第一五〇号　・発行日：令和五年二月一〇日
・発行者：（会長）峯島和彦　・編集委員長：（広報部長）平野哲哉